

免疫電気泳動(抗ヒト全血清による同定)(外注) 検査中止と代替検査項目のお知らせ

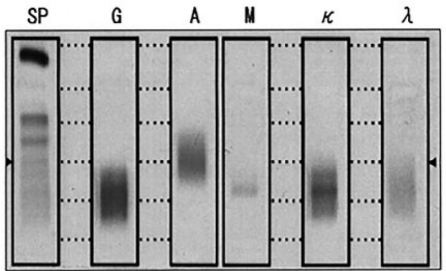
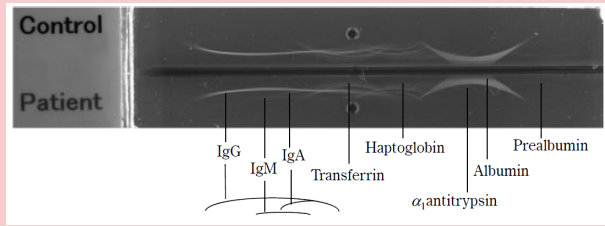
25-008 (2025 Mar.)

サポートライン
2147

このたび、掲題の検査項目(外注)について検査中止となり、代替検査項目をお知らせします。
診療科のみなさまには、ご理解いただきますようお願いいたします。

2025年 4月 1日 (火) 以降 検査中止

- 検査中止項目 : 免疫電気泳動(抗ヒト全血清による同定)
- 検査場所 : LSIメディエンス(外注)

	代替検査項目	中止項目
検査名	免疫電気泳動 (特異抗血清による同定) (コード: 6637)	免疫電気泳動 (抗ヒト全血清による同定) (コード: 6636)
検査方法	免疫固定法による免疫電気泳動 (immunofixation electrophoresis: IFE)	免疫電気泳動 (immuno-electrophoresis: IEP)
オーダーボタン	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">免電泳(特異抗血)</div> ➔ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">IEP[免疫固定法]</div> 免疫固定法であることが分かるように ボタン名称を変更します	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">免電泳(抗ヒト全血)</div>
泳動像の見本	 <p style="text-align: center;">M-band (IgM-κ)</p>	

スクリーニングとして実施される蛋白分画で検出されたM蛋白のクラスと軽鎖の種類を同定するために、IEPやIFEが行われます。

免疫電気泳動(IEP)は、蛋白分画では分離できない微量蛋白成分を、抗原抗体反応によって半定量的に同定するもので、抗ヒト全血清を用いると20種類以上の沈降線を観察することができます。

一方、**免疫固定法(IFE)**は、電気泳動後に特異抗血清を反応させることでM蛋白を拡散させずに固定してM-bandとして観察できます。**IFEのほうが検出感度が高く、15~50 mg/dL程度のM蛋白を検出できるとされています。**

M蛋白の同定に欧米では専らIFEが行われていました。近年、骨髄腫の国際的な判定基準で、完全奏効(complete response: CR)の要件としてIFEでの陰性化があげられたため、日本でもIFEが用いられるようになってきています。

東田修二. 臨床病理. 2019, 67(6), p.609-613.

検査部: 増田 (PHS: 2144) ・ 山本 (PHS: 82030) ・ 橋本 (PHS: 2141)

京都大学医学部附属病院検査部

<https://clinical-lab.kuhp.kyoto-u.ac.jp/>

kensa@kuhp.kyoto-u.ac.jp

KU:P



一次サンプル
採取マニュアル